

令和 8 年度

運 営 に 関 す る 計 画

【目標設定】

大阪市立桜宮中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和8年度 桜宮中学校 6つの重点目標

○みんなが笑顔で登校できる学校

- ・一人ひとりの子どもたちの特性理解(みんな違ってみんないい)
- ・不登校への対応(保護者の思い・子どもの思い)
- ・居場所づくり(ステップルームの活用、関係諸機関との連携)

本校では、令和7年度の不登校生徒の在籍比率は5.1%(16名/308名)となっている。不登校生徒に向けた教室内の授業配信(オンライン授業)、不登校生徒に対応したステップアップ教室の運用を引き続き実施する。また、不登校生徒への対応はもちろん、すべての生徒が笑顔で登校できる学校づくりを行う。

○コミュニケーション能力の向上

- ・社会が求めている人材
- ・まずは気持ちの良い挨拶から始まる
- ・すべての授業や学校行事の中で育成

地域の方々や、外部から来校される方々に気持ちのいいあいさつをすることからコミュニケーションをとれるようにする。「学校や地域でしっかりあいさつをしている」というアンケートに令和7年度は96.7%の生徒が肯定的な回答をしている。引き続き、あいさつを大切にしていきたい。また、授業において「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目において、最も肯定的な「そう思う」の割合は令和7年度は95.3%となっていることから、授業内におけるコミュニケーション能力の向上をさらにはかっていく。

○総合的読解力

- ・入試問題の変化(どの教科でも読んで理解する力が必要)
- ・読書の習慣(すべての授業や活動において)

全ての教科において読解力の向上を意識した授業を行っている。また、1・2年生では集会を実施しない週3回朝学活にて朝読を実施している。そのかいもあってか、生徒の一か月当たりの読書量は令和7年度は平均2.3冊となっている。令和4年度以降、図書館のバーコード化を実施したことで、来館者数にしろる一人あたりの貸し出し冊数は、年々微増しており、図書館の利用促進と貸し出し冊数増加による生徒の読書量を増やしていくことで読解力を向上させていきたい。

○学力向上

- ・授業力の向上(魅力的なわかる授業)
- ・家庭学習の定着

「誰一人取り残さない学力の向上」をめざす。年度末の校内調査における「先生たちは、授業をわかりやすくするための工夫をしている」の項目においては、肯定的に回答する生徒の割合が、過去10年間90%以上続いている。さらなる、工夫をしていく。また、家庭学習においては、全国学力・学習状況調査のアンケートから「1時間以上2時間より少ない」と回答している生徒が25%であり、全国平均と比較しても家庭学習の時間は短い生徒が多い。各教科から出される課題以外にも、自主的に家庭学習として取り組める、自主学習ノートや小テストへの準備等工夫が必要である。

○ICT を活用した授業や活動

- ・効果的な使い方(心の天気は確実に！)

1 年から3年まで全ての教室にプロジェクターを設置し、教育情報利用パソコンを用いた授業を実施している。また、教科の特性に応じて、プロジェクターと板書を併用するハイブリッド型の授業を展開し、一人一台端末の活用を各教科内ですすめている。一人一台端末内のコンテンツである teams や Google フォームなどの活用をさらにすすめていく必要がある。

○働き方改革の推進

- ・生活にゆとりを持って、心身の健康に努める
- ・社会状況の変化に対応し、法令を遵守する
- ・教職員自らも楽しむ学校

生徒に対してよりよい教育を行うためにも、教職員の心身の健康が必要不可欠である。昨年度、年3回の定時退勤日を設定した。今年度は、さらに定時退勤日の数を増やしていきたい。また、令和7年度の2月末時点での教員一人あたりの平均時間外勤務時間は 36時間08分となっている。さらに、時間外勤務時間が80時間を超える教職員の数は令和7年2月末で6名である。引き続き、生徒への教育の質を保ったまま教職員の働き方改革をすすめていく必要がある。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○令和11年度末の年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的回答する生徒の割合を91%以上にする。【R7 90.7%】

○令和11年度末の年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがあるとおもいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。【R7 81.7%】

○令和11年度末の校内調査におけるにおいて「もし、いじめがあっても、先生たちは適切に対応してくれる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。
【R7 95.8%】

○令和11年度末の校内調査における「夢や希望、目標をもって、学習やその他の活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
【R7 88.8%】

○令和11年度の校内調査における「学校や地域でしっかりあいさつをしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。【R7 96.7%】

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和11年度末の年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」「朝食を毎日とる習慣が身についている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。

○令和11年度末の年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。【R7 95.3】

○令和１１年度末の授業アンケートにおける「学習内容の習得」の平均得点を、3.7以上に向上させる。【R7 3.69】

○令和１１年度末の校内調査における「体育大会・文化祭などの行事で、わたしが力を発揮し活躍する場がある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合９３％以上にする。
【R7 92.6%】

【最重要目標３ 学びを支える教育環境の充実】

○令和１１年度末の年度目標アンケートにおける「授業で学習者端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する生徒の割合を５１％以上にする。
【R7 50.2%】

○令和１１年度末の校内調査において「授業では、コンピューター(タブレット含む)やインターネットなどを活用している」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を５１．０％以上にする。【R7 50.2%】

○令和１１年度末の校内調査において、「授業日に、生徒の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の８４％以上にする。
(ただし市教委が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)
【R7 平均83.9%】

○令和１１年度末は年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を９５％以上にする。
【R7 84.4%】

○令和１１年度における時間外勤務時間について、月８０時間を超えて実施する教員をゼロにする。【R7 6名】

○令和１１年度において、教職員の働き方改革に関して、月に１度、定時退勤日（ノー残業デー）の設定を行う。【R7 学期に１回】

○令和１１年度末の校内調査において、生徒の一か月当たりの読書量平均を３冊以上にする
ことで、読む力を向上させる。【R7 2.3冊】

○年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合５０％以下にする。
【R7 69.2%】

大阪市立桜宮中学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○年度末の年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 91%以上にする。 [R7 90.7%] ○年度末の年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがあるとおもいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 82.4%以上にする。 [R7 81.7%]	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 (3年生) 球技大会や文化祭などの行事で生徒のリーダーが企画・運営する部分をこれまでに以上に増やして、生徒の自治能力向上に努めたい。直近に行われる修学旅行では、生徒の実行委員を募り、「自分たちで作る修学旅行」に向けて、取り組みを行っている。また、これまでのインクルーシブ教育や食育の取り組みの集大成としての行事を行う。 (2年生) 中学校二年生として学校の中心となり、主体的に学校生活を支える態度を育成する。委員会や係活動を通して、球技大会等の行事を自ら企画・運営し、充実した学校生活の実現を目指す。また、職場体験に向けて ICT (Canva 等) を活用し、情報を収集・発信する力を育成する。さらに、落語家など多様な職業人による講話を通して働く意義を学び、自らの将来を主体的に考え、未来を切り開く力を養う。 (1年生) 「思いやりとそうぞう力 (想像力と創造力) で自分と仲間を大切にしよう」をコンセプトに、①アドバイスを即実行する素直さを大切に、②返事、挨拶、感謝の言葉、謝罪の言葉を使えるように礼儀を身に付け、③自分が正しいと思うことを素直に実行できる自信を獲得し、自分自身で進路を決定、獲得できる力を養う。また、多くの体験を共有し、うまくいかないときに自らの行いに目を向けるような学びを実践する。 【各学年】	
指 標 各学年において取り組みができたか	

取組内容② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 安全・安心な環境が「学校に行くのが楽しい」ということが前提である。 日頃より生徒の学校生活を観察し、定期的に教育相談を行うことで、問題行動の早期発見・早期解決に努める。自他の尊厳を認め合う。信頼できる集団づくりに努める。 【生指部】	
指 標 教育相談を年に2回以上行いトラブルの早期発見に努める。いじめアンケートを3回実施することで、問題やトラブルの早期発見に努める。【もし、いじめがあっても、先生方は適切に対応してくれる】の項目について、昨年同様90%以上にする。	
取組内容③ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 生徒会を中心に、生徒議会や各専門委員会・学級会活動・部活動を充実させて、生徒たちが主体的に行事を運営するように努める。 【生指部】	
指 標 学校アンケート【体育大会・文化祭などの行事で、私たちが力を発揮し活躍する場所がある】の項目について、肯定的回答を90%以上にする。	
取組内容④ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳的な心情や判断力、実践意欲・態度などの道徳性を育成するため、年間35時間の道徳授業時数を着実に実施する。あわせて、総合的な学習の時間や特別活動との関連を意識しながら、計画的かつ発展的な指導を行う。 【道徳担当】	
指 標 年間1回の全学級公開授業を実施するとともに、相互授業参観や研究協議を充実させることで、指導力のさらなる向上に取り組む。 学校アンケートにおける【わたしは、道徳や総合的な学習の時間で自分の考えを深めている】の項目について、肯定的回答率を93%以上にする。	

大阪市立桜宮中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○年度末の年度目標アンケートにおける「生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95.4%以上にする。 ○年度末の年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を94.1%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑤ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 生徒会を中心に、生徒議会や各専門委員会・学級会活動・部活動を充実させて、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、自ら進んで行動できる生徒の育成に努める。 【生指部】	
指 標 生徒会執行役員を中心に生徒議会はじめ、各専門委員会などでより良い集団づくりを目標に、いろいろな生徒が発言できる環境をつくり、生徒が積極的に行事に参加できる雰囲気づくりに努める。 各学年の委員長会議を毎週行い、自分の考えを深めたり、広げたりすることできる機会を増やす。	
取組内容⑥ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びにつながる協働的学習（グループ活動、言語活動）を学校全体で積極的に取り入れ、資質・能力の向上につながる取り組みを推進する。また、授業の工夫・改善を重ねることで授業力を高める。 【教務部】	
指 標 各教科で1人1回以上の公開授業と研究協議を行う。また、校内全体で年1回以上研究協議をともなった授業発表を実施する。	
取組内容⑦ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健分野、体育分野の授業において食事と健康との関わりについて指導するように努める。 【保体】	
指 標 保健授業において、資料やデータ活用し、食事と健康の関わりについて学び、自らの生活で実践するための調べ学習や発表を行う。 全国体力・運動能力テストの結果を活用し、運動能力と朝食の関係について示す。	

取組内容⑧ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 基本的な生活習慣として、規則正しい睡眠時間や朝食の摂取などにの指導に取り組む 【健教】	
指 標 ICT を活用し、生活習慣に関するアンケートの項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を93%以上にする。	
目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

(様式2)

大阪市立桜宮中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおりに達成した D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
--	---

年度目標	進捗状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ○年度末の年度目標アンケートにおける「授業で学習者端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を51%以上にする。 【R7 50.2%】 ○時間外勤務時間について、月80時間を超えて実施する教員をゼロにする。 ○年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合65%以下にする。【R7 69.2%】	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑨ 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 「ICTを活用した教育」を推進し、協働学習や個別学習の充実を図る。	

【ICT 担当】	
指 標	
ICT の活用に関する校内研修を年 1 回実施し、デジタルドリルなどのさらなる活用につなげる。	
取組内容⑩	【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教材研究や職務への取り組み方を見直すことで、教職員の働き方改革への意識を高める。 【教頭】
指 標	
学期に一度の定時退勤日を設置する。	
取組内容⑪	【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 学びサポーターや部活動指導員を活用し、教職員の負担軽減に努める。 【教頭】
指 標	
年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。	
取組内容⑫	【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 図書館司書、元気アップの皆さんの協力をいただきながら、図書館活用の活性化を図りたい。読書をするため、学習をするため、そして居心地のいい場所として図書館を利用できるよう環境を整える。 【図書担当】
指 標	
図書委員のみならず、図書館ボランティア（生徒有志）の力を借りながら、放課後の開館時間、開館日数を増やす。 「読書が好き」と答える生徒の割合を、70%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
今後の改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 【各教科】	進捗状況
【国語】 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較し、前年度の結果を保つもしくははより向上させることを目標とした授業を展開し、習熟度別授業を全学年で行い、知識の定着を図りつつ、考える力を養う。 指標 ・語彙力を高めるために漢字小テスト等を行い、定期テストにおける語彙に関する部分の正答率を63%以上にするを目指す。 ・文章を読み取り自分の考えを表現するという定期テストにおける考察問題の解答率を70%以上にするを目指す。 ・苦手意識を多くの生徒が持つ文法学習、昨今の入試に見られる読み取る力を伴った作文課題についての、習熟度別授業を行う。	
【社会】 自ら学ぶ態度を育成し、基礎・基本的な知識を定着させるとともに、社会的事象を考察し、主体的に社会の形成に参画する態度を育成する。 指標 ・生徒に興味関心を持たせ、知識や理解を深めさせるため、ICT関連機器を取り入れた授業を、全授業数の3分の1以上実施する。 ・定期テストの正答率を、年間を通して60%以上をめざす。 ・時事や資料などの情報を収集する能力を育成するとともに、収集した情報を活用して、個々の考えをまとめる取り組みや集団での考えをまとめる取り組みを、各学期に1度ずつ取り入れる。	
【数学】 各学年デジタル教科書を活用し、基礎学力を育成する。 また、課題等で復習する時間を設け、既習内容の定着を図る。 指標 ・各学年で小テストを実施し、正答率を70%にする。 ・定期テストにおいて、30点未満の生徒の割合を1割未満にする。 ・毎回の授業で、ICTを活用する。	
【理科】 基礎学力の定着を図り、得られた情報を使って科学的思考ができるようにする。 また、思考したものを表現することができるような授業計画を立てる。 指標 ・基礎学力は小テストなどを行い、繰り返し学習することにより定期テストの知識・技能の観点において正答率77%以上を目指す。 ・実験、実習においては予想させ、レポート（記録）をしっかりと書かせることにより、科学的思考を身につけるようにさせ、昨年度達成できなかった、大阪中学生チャレンジテストで思考表現の項目の正答率を大阪府の平均点より3点以上を上回るようにする。	

【音楽】 音楽活動に取り組みやすい環境をつくり、多様な意見に触れながら自身の考えを深め、創意工夫して表現する能力を高める。	
指標 - 電子黒板やタブレットなどのICTを用いた授業を、年間80%以上実施する。定期テスト、実技テスト前には参考演奏の動画や授業資料をTeamsで共有する。 - 各学年で混声三部合唱または二部合唱の取り組みを実施し、音程やリズムを丁寧に指導することで自信を持って歌えるようにする。 - 和楽器の実技演習または日本の伝統芸能についての学習を各学年で年間1～2回実施する。	
【美術】 美術への苦手意識を持つ生徒も含め、全生徒が表現の喜びを感じ、資質・能力を向上させられる授業を展開する。具体的には、毎時間の「めあて」を構造的に提示し、ICTを活用して制作工程や完成イメージの可視化を図ることで、見通しを持った活動を支援する。また、他者の作品を鑑賞し、多様な価値観に触れる活動を通じて、コミュニケーション能力と自己肯定感を育む。	
指標 ICTの活用：映像資料やデジタルポートフォリオ（Classroom等）を活用した授業を、全授業回数の80%以上で実施する。 学習の充実度：年度末の授業アンケートにおいて、「美術の授業で自分の考えを表現したり、工夫したりすることができた」と肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする 苦手意識への配慮：毎時間、振り返りスライドを活用し、個々の進度や困り感に合わせた机間巡視および助言を行う。	
【保体】 「運動が得意・不得意」に関わらず、誰もが運動を楽しみ、主体的に体力を向上させる力を高める 健康について、知識の習得にとどまらず、実生活で「適切な意思決定」ができる力を育成する。	
指標 - 体育授業において、各単元につき1回以上、技術の習得や分析、振り返りにICTを活用する。 - 保健授業では、すべての授業でICTを活用し、資料の提示や課題解決や発表、振り返りを行う。また、単元ごとに定期テストや小テストにおいてが単なる用語の暗記ではなく、思考・判断を問うことでより学びを深める。	
【技家】 生活の中で生じる技術的な問題を実習や体験などの活動を通して主体的に発見・解決し、それに必要な知識や技能を習得するとともに、ICTを活用したグループ学習などの主体的な取り組みを通して、思考・判断・表現する力を身につける。	
指標 実習や体験の充実を図り、見通しをもった計画的な製作活動を通して、基本形の作品を期限内に完成できるよう指導する。 ICTを活用した授業を、毎学期授業数の3分の1以上行う。	
【英語】 コミュニケーション能力やスピーキング能力育成のため、C-NETや国際交流授業などを通し、外国の人とのスピーキング活動を多く取り入れ、実用的な英語学習を行う。	
指標 各学年学期1回、C-NETとのスピーキング練習、または外国の生徒とのzoomによるリアルタイム交流を行う。	

3 本年度の自己評価結果の総括

--